

2024年（令和六年） 12月13日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

当週（12月5日～11日）の国際石油市場は、OPECプラスは減産緩和の先送りを決めたが、先行きの石油需給緩和観測が強い中、前半2日、値下がり続けたが、後半、シリアにおけるアサド政権崩壊もあり、緊張の高まりで、後半3日は値上がり続けた。中国の景気刺激策、米国の利下げ観測も上昇要因。

NYのWTI原油先物市場は、5日、続落の68.30ドルで始まり、6日は67.20ドルまで低下、週明けは反転、11日は3営業日続伸の70.29ドルと70ドル台を回復した。

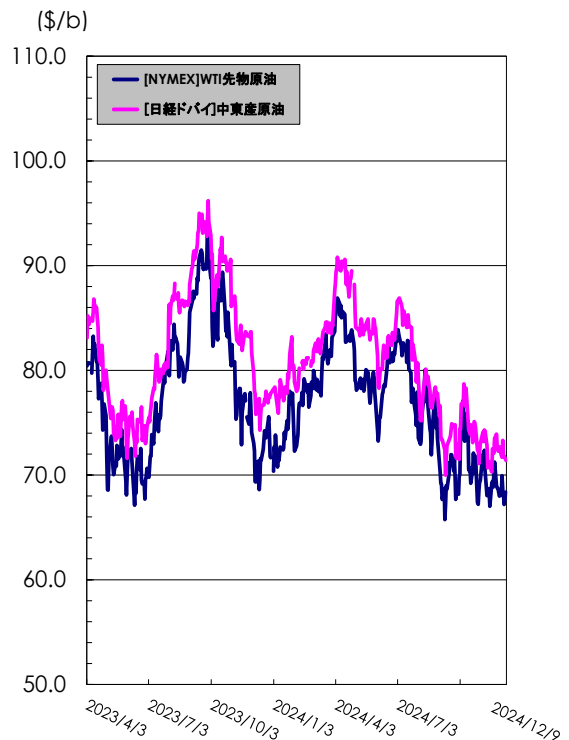
また、中東産パイ原油/東京市場（1月渡し）も、前週（11月28日～12月4日）は71.70～73.30ドルの範囲で推移したが、当週は、12月5日71.80ドル、6日71.80ドル、9日71.40ドル、10日71.50ドル、11日72.30ドル。

対ドル為替レート（TTM）は前週（11月28日～12月4日）149.82～151.77円の範囲で推移したが、当週は、12月5日150.38円、6日150.06円、9日149.85円、10日151.54円、11日151.86円となった。

財務省が12月6日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、11月中旬の原油輸入平均CIF価格75,109円で前旬比289円高、ドル建て77.98ドルで前旬比0.75ドル安、為替レートは1ドル/153.13円。

そのような中で、12月9日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.3円高、軽油も同0.3円高、灯油は同1円高（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は175.7円となった。12月12日～18日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は14.9円（補助金がない場合の次週予想価格189.7円で、168円から185円の補助率60%支給部分10.2円、185円を超える補助率100%支給部分は4.7円）と、前週比0.3円の減額となった。

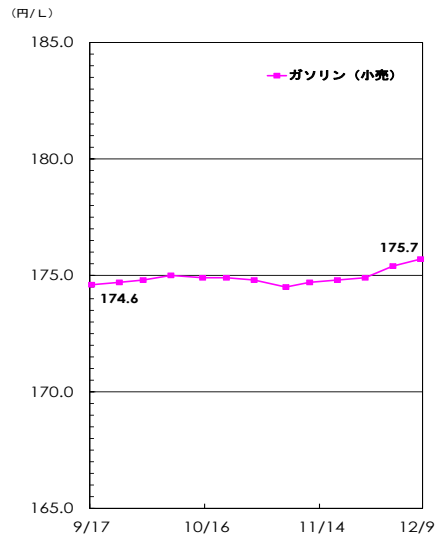
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	12/1 ~ 12/7	2,862 ▲113	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	82.7 ▲3.3	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	12/7	9,576 ▲15	▼ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	12/9	71.40 ▼0.50	▼ -5.8
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	12/9	68.37 ▲0.27	▼ -2.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	11月中旬	77.98 ▼0.75	▼ -15.92
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	75,109 ▲289	▼ -13,682
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	153.13 ▼2.03	▼ -2.80
	外国為替TTSレート (¥/\$)	12/9	150.85 ▲0.37	▼ -4.45



(単位: 千kl、円/%)

		今週	前週比	前年比
需給	在庫	12/7	1,833 ▲ 62	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 12/3 ~ 12/9	80.0 → 0.0	▼ -0.8
価格	(TOCOM/中部)	12/9	83.0 ▼ -1.0	▲ 4.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/9	175.7 ▲ 0.3	▲ 0.6

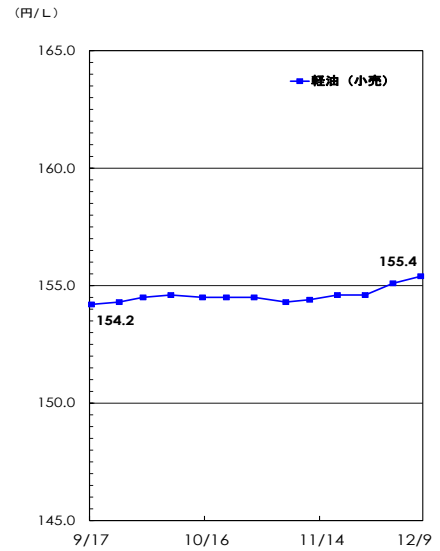
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

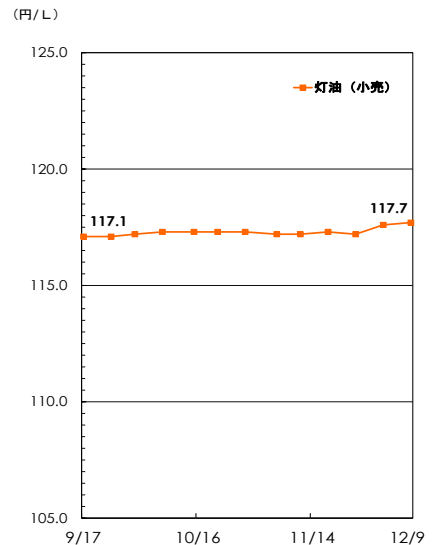
		今週	前週比	前年比
需給	在庫	12/7	1,455 ▼ -119	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 12/3 ~ 12/9	83.2 ▲ 0.2	▲ 1.4
価格	(TOCOM/中部)	12/9	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/9	155.4 ▲ 0.3	▲ 0.7

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

		今週	前週比	前年比
需給	在庫	12/7	2,540 ▼ -111	▼ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 12/3 ~ 12/9	81.5 ▲ 1.5	▲ 0.3
価格	(TOCOM/中部)	12/9	85.0 → 0.0	▲ 5.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/9	117.7 ▲ 0.1	▲ 1.1



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（11/28～12/4）のNYMEX・WTI先物市場は68.00～69.94ドルの範囲で推移した。

当週、12月5日は、各方面から2025年に向けて需給緩和観測が高まる中、当初1日に予定されていたOPECプラス閣僚会合（ONOMMC）がWEB開催され、全体の協調減産実施を2026年末まで1年間延長することを合意するとともに、1月開始予定であった有志8カ国による追加自主減産220万BDの段階的緩和（＝増産）を4月から先送りし、2026年9月までとすることを確認したが、市場は予想の範囲内で驚きはなく、続落した。1月物終値は前日比0.24ドル安の68.30ドル。

週末6日は、OPECプラスの減産は決まったものの、市場全体の需給緩和傾向は変わらないとの受け止めが高まり、続落した。1月物終値は同1.10ドル安の67.20ドル。

週明け9日は、シリアの反政府勢力の首都制圧・アサド政権崩壊の発表を受け、中東全体の緊張激化懸念から4営業日ぶりに反発した。また、中国政府が金融政策を緩和に転換、景気回復期待が高まったことも、上昇要因。1月物終値は同1.17ドル高の68.37ドル。

10日は、米国の年内追加利下げの観測が強まる中、中国では、この日発表の11月貿易統計が軟調であったものの、前日の景気刺激策への期待が高まり、続伸した。シリアでは、反体制派が暫定首相にムハンマド・バシル氏を指名、情勢も一服したとの見方が広がった。1月物終値は同0.22ドル高の68.59ドル。

11日は、欧州共同体（EU）が大使級会合で、原油取引を中心とする対ロ経済制裁の強化に合意したとの報道があり、ロシア産原油の輸出減少につながるとして、3日続伸、3週間ぶりに70ドル台を回復した。ただ、この日発表のOPEC月報は、2025年の世界石油需要見通しを前年比145万BD増と、前月見通しの同154万BD増から、5か月連続で下方修正したことが、上値を抑えた。同じくこの日発表の米国石油在庫週報は、前週比で、原油は取り崩し石油製品は積み増しで、大きな影響はなかった模様。1月物終値は同1.70ドル高の70.29ドル。

2 海外/米国石油市場

12月11日発表の12月6日時点の米国石油在庫は、原油在庫は前週比140万バレル減と、取り崩し幅は市場予想（90万バレル減）を上回ったが、ガソリン在庫は510万バレル増、中間留分在庫も320万バレル増と、ともに予想以上の積み増しとなった。

EIAによると12月9日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比2.6セント安の1ガロン3.008ドル（119.7円/ℓ）と8週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比8.2セント安の1ガロン3.458ドル（137.6円/ℓ）と3週ぶりの値下がり。

ベーカー・ヒューズ社によると、12月6日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比5基増の482基となった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、2024年12月1日～12月7日に休止したトッパー能力は7.8万バレル/日で、前週に対して11.7万バレル/日減少した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は286.2万klと、前週に比べ11.3万kl増加。前年に対しては9.7万klの減少。トッパー稼働率は82.7%と前週に対して3.3ポイントの増加、前年に対しては0.4ポイントの増加となった。

4 国内/製品在庫量

12月7日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリン、ジェット、軽油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは183.3万kl、前週差6.2万kl増。前年に対しては9.8万kl多い。

灯油は254.0万kl、前週差11.1万kl減。前年に対しては18.6万kl少ない。

軽油は145.5万kl、前週差11.9万kl減。前年に対しては12.7万kl多い。

A重油は75.2万kl、前週差0.9万kl増。前年に対しては1.3万kl多い。

C重油は162.3万kl、前週差0.3万kl減。前年に対しては16.3万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (12/7)	前週 (11/30)	前週比	
ガソリン	1,833	1,771	▲ 62	(4%)
ジェット燃料	828	823	▲ 5	(1%)
灯油	2,540	2,651	▼ -111	(-4%)
軽油	1,455	1,574	▼ -119	(-8%)
A重油	752	743	▲ 9	(1%)
C重油	1,623	1,626	▼ -3	(-0%)
合計	9,031	9,188	▼ -157	(-1.7%)

5 国内/元売会社製品卸価格

12月3日～9日のドル建て中東原油価格は前週比値下がりし、為替レートも円高が大きく進み、元売会社の卸建値は値下がりがりしたものと見られる。補助金は減額されたものの、12/12～12/18の実質卸価格はわずかに値上がりとなる模様。

6 国内/製品小売価格

12月9日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円高の175.7円、軽油も同0.3円高の155.4円、灯油は18%ベースで同1円高の2,118円(1%ベースでは0.1円高の117.7円)。ガソリンは5週連続の値上がり、軽油は2週連続の値上がり、灯油も2週連続の値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが30都府県、横ばいは3県、値下がりは14道県だった。全国最安値は岩手県の169.1円、その次は徳島県の170.5円であった。他方、最高値は長野県の185.6円。最も値上がりしたのは香川県(同2.0円高)、最も値下がりは大分県と福井県の(同0.6円安)だった。

次回調査時(12/16)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (12/9)	前週 (12/2)	前週比	直近高値
レギュラー	175.7	175.4	▲ 0.3	23/9/4 186.5
灯油	117.7	117.6	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	155.4	155.1	▲ 0.3	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2024第36号) の公表は、12/20 (金) 14:00 です。

2024年12月より石連週報の公表内容の見直しがあり、「3.国内/製品出荷量」の項目・内容を変更しました。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」 (旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。